



## 台風18号災害における当支部の対応について

平成29年9月の3連休、台風18号が全国に大きな被害をもたらしました。

大分県支部では、発災翌日には佐伯市に救援物資を引き渡し、続いて臼杵市、豊後大野市、津久見市へお届けしました。

大分県支部のみでは対応できない量の要請がありましたが、福岡県支部・佐賀県支部からの協力を得て、要請に応えることができました。こうした全国のネットワークが、日本赤十字社の強みです。(※医療救護班の要請はありませんでした。)

### 救援物資の配布状況

日 時	市 町 村	救 援 物 資			備 考
		毛 布 (タオルケット)	緊 急 セ ッ ト	バ 斯 タ オ ル	
9月18日	佐 伯 市	200	96	100	100世帯：200人分
9月19日	佐 伯 市	400	246	144	200世帯：400人分
9月19日	臼 杵 市	199	96	72	100世帯：200人分
9月20日	豊後大野市	100	35	—	35世帯：100人分
9月20日	津 久 見 市	1,600	1,068	—	1,060世帯 福岡県支部から 毛布：1000・緊急セット：504 佐賀県支部から 緊急セット：504 大分県支部から 毛布：600・緊急セット：60
9月25日	臼 杠 市	20	20	20	
10月 6日	佐 伯 市	80			40世帯：80人分
合 計		2,599	1,561	336	

### 「緊急セット」の内容 (24品目)



タオル・ウエットティッシュ・軍手・ビニール袋・コップ・ポケットティッシュ・物干しロープ・洗濯バサミ・スプーンフォークセット・ゴム手袋・救急絆創膏・弾力包帯・不織布ガーゼ・不織布マスク・歯ブラシ・毛抜・携帯ラジオ・懐中電灯・鉛筆・メモ用紙・日本赤十字フレット・風呂敷・天チャックポーチ・ツーウェイバッグ



各市町村に赤十字窓口があるおかげで、必要な場所に必要な量をお届けすることができました。



佐伯市役所職員と積み下ろす様子

### 活動の様子

津久見市では消防隊の皆さんの協力をいただきました



赤十字防災ボランティア「つばさ」のメンバーも駆けつけました

津久見市川野市長へ物資搬送報告

## 日赤大分県支部の事業は、県民の皆様からお寄せいただく 社資(活動資金)によって支えられています

### 赤十字の国内災害救護事業

#### 地域の防災力向上を目指して赤十字防災セミナーを県内各地で開催しています!

熊本・大分地震、九州北部豪雨、台風18号などの自然災害を経験し、いま防災・減災についての意識があらためて高まっています。赤十字は地域の防災力向上を目指して、県内の自治会や団体を対象に防災セミナーを行っています。

非常炊出し訓練やロープワークなどの実技のほか、参加者自身が防災マップを作成する災害図上訓練や、地震や津波の被災者のインタビュー記事を読んで災害を体験する災害エスノグラフィーなどのプログラムを提供しています。

赤十字は、過去の災害から得た教訓を踏まえ、いつ起こるか分からない災害からいのちを守るために、ご自身とご家族を守る「自助」の力と、地域にお住まいの皆さんが協力して難局を乗り切る「共助」の力が極めて重要だと考えています。

赤十字防災セミナーを通じて、皆さん一人ひとりが災害と向き合い、被害をより小さくするために必要な備えについて一緒に考え、話し合ってみませんか?

参加者  
の声

あらためて災害に対する意識づけができるって良かったです。  
自分たちで対応できることやあらかじめ準備しておくことの大切さなど、たくさん学ぶことができました。



自分たちが住む地域の弱点や防災資源を地図に書き出して意見交換をする災害図上訓練



参加者のニーズに応じた内容を分かりやすく説明します

### 赤十字の青少年赤十字事業

7 31 MON 8 1 TUE 2 WED  
小中学校の部



心肺蘇生を実践して、人の命を救えるようになろう!



気付いたことは、掲示板にて情報共有!

リーダーシップ  
トレーニングセンター

8 2 WED 3 THU 4 FRI  
高校の部

夏休み真っ最中。毎年恒例となっている、上記研修会が杵築市『上村の郷』にて開催されました。小中学校の部5校24名、高校の部13校44名、それぞれ3日間ずつ県内各地から集まったJRCメンバーと共に過ごし、赤十字に関する知識を学ぶことはもちろんのこと、指示はなく伝達事項は全て掲示板で行い、テレビやスマホがない環境で“この生活にどういうニーズ(必要なもの)があるか?”を考え、自らできることを実行しました。

この研修では、1人1人がリーダー。誰任せにもせず、今後の学校や家庭生活でのニーズに気付き、実行するために何をすればよいかを考える力を身に付けました。「誰かのために行動すること」に喜びを感じる実りのある3日間となりました。



ハンディキャップを抱えてチーム対抗風船バレーサポートしてくれる仲間がいると安心!



今後実践したい活動の実施方法について先生からのアドバイスを求めました